

平成17年9月6日大水害

あれから10年

教訓は生かせるか…

>14<

杉尾 哲氏 基調講演
平成17年台風14号大水害の教訓



けば、いろんな所で見られるようにしてあります。

ハード整備がいろいろと行われてきたんですが、治水安全度が高くなると防災意識が段々と薄れてしまっじゃないかと言われます。

そういったことを忘れさせないようにというところで、宮崎市は27カ所に想定浸水深を示す看板を電柱に取りつけています。まちを歩

ちよくちよく防災の取り組みが出来ますね。あれがやっぱりいいんじゃないかと思つています。

所に公園を持つておられると思いますので、そういった場所を使って看板を立てていただきたいと思つています。それから、幸いにして、宮崎県では防災の意識があまり薄れないでいます。大学の研究者の中では、大体5年で薄れるんじゃないかねと言つていたんです。が、いまだにまだ少し残つています。

延岡河川国道事務所聞いたたら、延岡では2カ所に設置しているということですがそれじゃ足りない、やっぱりいろいろの場所に置いてもらわないといけないと思つています。延岡市はいろいろな場

残念なのは、去年までNHKとMRTとFM宮崎で3局合同防災ラジオというのをやっていたんですが、今年はNHKが降りたというんです。2局合同になったんですが、

やっぱりそれは間違いだらうと思つています。NHKさんには防災の地域貢献、報道の地域貢



貢献をもう一回考えていただいて、来年また復帰してほしいと思つています。

自然災害の発生を減らすというのは並大抵ではできません。人間

警告、助け合つて早く避難

行政は空振り恐れず情報早めに

防災・減災を考えるシンポジウムから――

夕刊デイリー新聞を広げる避難者。防災には行政やメディアの情報発信も欠かせない(平成17年9月6日、延岡市内の避難所)

の力では恐ろげできないだらうと思つています。ですが、被害を減らすのは皆さんの努力次第でできるんですよ。だから、避難勧告が出れば地域で助け合つて早く避難する、且この防災訓練に欠かさず出る、これが大切だらうと思つています。行政は早めに避難情報を出す。空振りになつてもオカミ少年になつても構わんから、恐れないうで早めに出すことを心掛けていただき、減災に努めていただければいいと思つています。